広南学園　道徳研究通信

令和５年９月１９日

NO．０２

９月１１日（月）に小中合同研修会２回目の授業研究を行いました。道徳教育推進リーダー研修を兼ねて１００名を超えるたくさんの先生方に参観していただきました。授業の中では，子ども達が主体的に考え，進んで思いを伝えようとしている姿がたくさん見られました。暑さとも戦いながら頑張っていましたね。酒井先生，提案ありがとうございました。

令和５年　９月１１日（月）　第６学年　酒井早希教諭，山﨑聖子教諭

主題名　誠実に明るい心で　　内容項目　A2　正直・誠実

教材名　「手品師」　出典　東京書籍

決断に迷ったとき何を大切にしたらよいのだろう？

【協議会より】

＜導入＞

・学校生活で起こりそうな決断に迷う場面を提示し，自分だったらどうするのかを考えさせることで，教材の中でも課題意識をもって考えることができていた。

＜資料提示＞

・教材を分割していたこと，役割読みをしていたことが効果的であった。

＜中心発問＞

・どちらが良いかではなく，手品師の気持ちとしたところが良かった。

・手品師の男の子に対する思いだけではなく，手品師自身の思いを引き出す発問，後悔はないのかを問いかけたのは，児童がより考えるためのきっかけになった。

・もっと切り返しがあれば深い学びになる。

＜交流＞

・自分の思いを考え，よく出し合い，友だちや先生の発言をよく聞きあっていた。

◎子ども達がお互いの意見を尊重しあうクラスであると感じた。日頃から多面的な意見がでる雰囲気があるので，自分の考えを深める環境ができている。

・友だちの発言を聞いて，自分の考えと重ね合わせて考えたり，さらに意見を発表したり，友だちに質問をしたり，話し合いながらうなずいたり、つぶやいたりして考えを深めたり広げたりしていた。

＜ふりかえり＞

・道徳での学びと自分の実体験を照らし合わせている児童が多かった。また，自分がこれから決断に迷ったときには，こうしたいという思いを語っていたのが印象的だった。

【指導助言】

〇呉市教育委員会　小西　篤子指導主事より

・子ども達が発表したくなるような発問だった。
・ICT を活用することで，相手も自分のことも考えられるようにしていた。
・自分の言葉でつないでいく必要がある。自分の授業でどうつなげていくか考えて行くことが必要。
・他の教科で「話し合う」「議論する」ということを醸成させて欲しい。

【講演】

〇十文字学園女子大学　浅見　哲也教授

「道徳教育の要となる道徳科の授業改善に向けて」

・教材の良さを生かす発問の例として，「手品師が自分の夢をかなえることも，誠実ではないのでしょうか？」と問い，深く考えることができる。「自分の心の中にも手品師が大切にしている心はありますか？」と問い，自分を見つめさせることができる。誠実さとは自分の中にあるもので，自分が真剣に考えて判断するところに生まれる。
・①価値理解（本時では誠実に行動し，明るく生きていこうとする）
②人間理解（腕を磨いていたときの気持ち，男の子をほおっておけない気持ち）
③他者理解（あなただったらどちらを選びますか？）
この３つの理解により自分で自分を理解する（自己理解）ことにつながる。
・多面的，多角的に考える良さとは，多様な感じ方や考え方に接することで，様々な視点から物事を理解することができる。色々な考え方を知っていた方が失敗しない。
・道徳の授業へのこだわりとは
どのお店も家庭も同じ味は一つもない。お店ではこだわりの味をお客様に，家庭では親が子どもに合わせて味を調えている。

ラーメンのこだわり（いかに教材をおいしく提供するか）
カレーライスのこだわり（子どもの実態に合わせて提供するか）
具材へのこだわり（いかに内容項目をかみ砕いて提供するか）
作り方へのこだわり（いかに分かりやすく提供するか）
以上のようなこだわりをもつことで，ご馳走を食べた子ども達が，健康で明るく元気になる。